平成 29 年度

熊本市エイズ総合対策　報告書

平成 30 年 3 月

熊本市保健所　感染症対策課

熊本市エイズ総合対策　報告書

目次

１　平成 29 年度熊本市エイズ総合対策　概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
２　エイズ及び性感染症関係統計 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
３　平成 29 年度　熊本市エイズ対策事業報告
（１）平成 29 年度　熊本市エイズ及び性感染症対策事業・・・・・・・・・・・・・・５
①正しい知識の普及啓発（青少年、ＭＳＭ、一般市民、他）
②相談検査体制の充実
③医療体制及び生活支援体制
④推進体制の整備
（２）平成 25～29 年度 ＨＩＶ感染および性感染症の予防対策（評価）・・・・・・１１
①ＨＩＶ抗体検査数の増加
②性器クラミジア感染症報告数の減少
（３）平成 29 年度　検査利用者の状況について（受検者アンケート結果）・・・・１３

（参考資料）
●統計「エイズ及び性感染症の動向」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
●情報「エイズ動向委員会報告 2018 年 3 月」から抜粋・・・・・・・・・・２０
〇委員長コメント
〇表 2　平成 29 年 12 月 31 日現在のＨＩＶ感染者及びエイズ患者の国籍別、性別、感染経路別報告数の累計
〇表 3　ＨＩＶ感染者及びエイズ患者の都道府県別累計報告状況
●熊本市エイズ総合対策推進会議設置要綱　・・・・・・・・・・・・・・・・２５
●熊本市エイズ対策のあゆみ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７

別冊１　平成 29 年度　各団体での取り組みについて(報告)
別冊２　平成 29 年度　ボランティアグループとの取り組みについて

１　平成 29 年度熊本市エイズ総合対策　概要

■本市の状況

（１）ＨＩＶ感染者・エイズ患者の現状

① 累計のＨＩＶ感染者・エイズ患者報告数に占めるエイズ患者数の割合は、これまで全国の約 30%に比べてやや高かったが、28 年は 26.3%、29 年は 16.7%と低くなっており、早期発見が進んでいると示唆された。今後も継続できるよう、啓発を強化実施していく必要がある。

② 新規ＨＩＶ感染者・エイズ患者報告数は、近年、年約 10 件程度で横ばい傾向にある。今後の感染予防と感染の早期発見のため、青少年への啓発を強化するのに加え、大人に対しても知識と意識の向上を図る必要がある。

③感染経路としては男性同性間の性的接触が最も多い。ＭＳＭ（男性と性行為を行う男性をいう。以下同じ）への啓発に力を入れる必要がある。

（２）エイズ相談・ＨＩＶ抗体検査件数

熊本地震の影響で検査体制を縮小しており、平成 29 年のエイズ相談・ＨＩＶ抗体検査数は、1,269 件と減少している。

（３）エイズ対策事業（トピックス）

①特例検査・臨時検査の実施

定例の夜間･日曜検査を休止していることから、休日・夜間の特例検査・臨時検査を年４回実施した。

②ＭＳＭ当事者グループとの協働

熊本のゲイ支援サークル「Safety Blanket」との取組みを行った。今年度は、連絡会や担当者間のミーティングを重ねながら、勉強会兼交流会の開催を軸に取り組みを行った。今後、若い世代を対象とした新しい取り組みとしてインスタグラムなどＳＮＳを活用した啓発を行っていく。

■エイズ・ＨＩＶ感染症　最近の動向（全国）

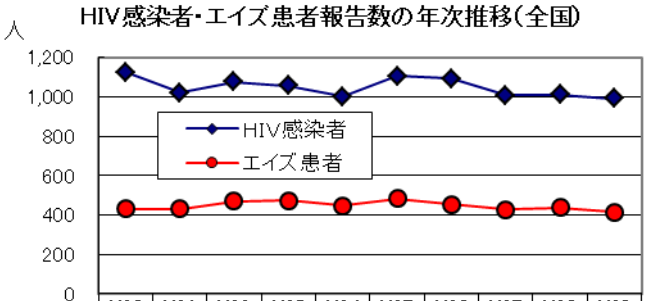
（１）新規ＨＩＶ感染者と新規エイズ患者報告数は 29 年は 28 年より減少した（速報値）ものの、約 1,500 件で横ばいである。また、全体に占めるエイズ患者数の割合は、約３割で推移している。

（２）感染経路としては性的接触によるものが 8 割を占めている、ＨＩＶ感染症は予防が可能な感染症であり、感染していない方は適切な予防策をとること、感染した方は、まずは自分の感染を知ることが今後感染拡大防止のために重要である。

2　エイズ及び性感染症関係統計

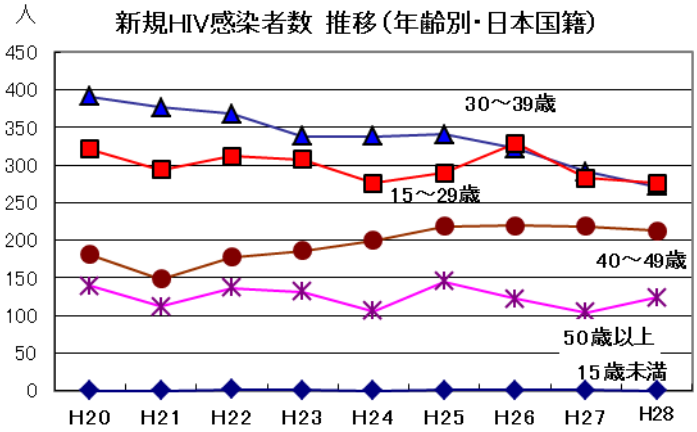
＊全国のH29は速報値

（1）ＨＩＶ感染者及びエイズ患者報告数推移（全国）



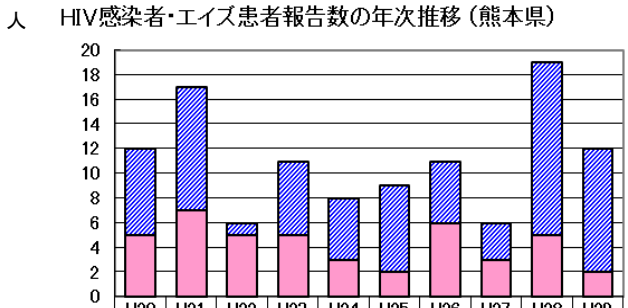
	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
HIV感染者	1,126	1,021	1,075	1,056	1,002	1,106	1,091	1,006	1011	992
エイズ患者	431	431	469	473	447	484	455	428	437	415

ここ数年間、新規ＨＩＶ感染者と新規エイズ患者を合わせて約1,500件の報告があり、横ばい傾向にある。29年は28年よりやや減少した。



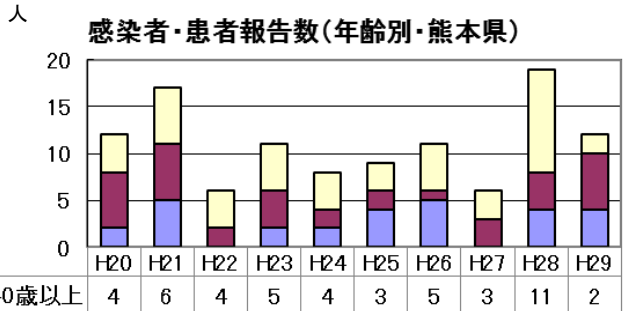
26年以降、15～29歳と30～39歳が同程度で最も多い。

（2）ＨＩＶ感染者及びエイズ患者報告数推移（熊本県）



	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
HIV感染者	7	10	1	6	5	7	5	3	14	10
エイズ患者	5	7	5	5	3	2	6	3	5	2

平成 29 年の報告数に占める新規患者数の割合は、16.7%と全国に比べ低い値だった。



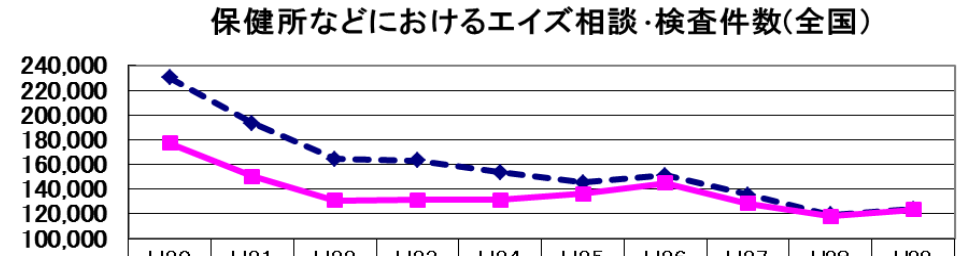
	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
40歳以上	4	6	4	5	4	3	5	3	11	2
30代	6	6	2	4	2	2	1	3	4	6
29歳以下	2	5	0	2	2	4	5	0	4	4

平成 29 年の新規報告は、20 代・30 代の割合が多かった。

HIV感染者・エイズ患者報告数に占めるエイズ患者の割合(日本国籍のみ)	熊本県	全国	東京
累計（昭和60年～平成28年）	39.1%	31.3%	23.1%
過去5年（平成24～28年）	35.8%	30.5%	20.2%
平成28年	26.3%	30.8%	22.4%
平成29年	16.7%	29.5%(速報値)	20.8%(速報値)

28 年以降、HIV 感染者・エイズ患者報告数に占めるエイズ患者の割合が全国に比べ低くなっている。

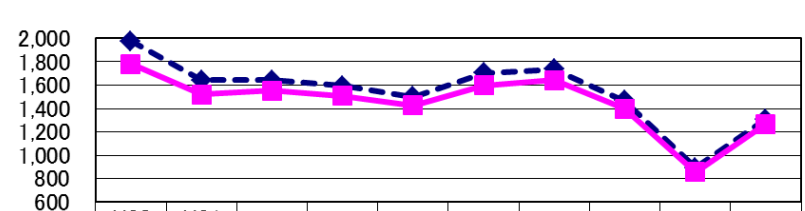
（３）保健所などにおけるエイズ相談･検査件数（全国）



	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
相談	230,091	193,271	164,264	163,006	153,583	145,401	150,993	135,282	119,378	123,768
検査	177,156	150,252	130,930	131,243	131,235	136,400	145,048	128,241	118,005	123,432

平成22年以降、年14～12万件程度で推移している。

（４）エイズ相談･検査件数（熊本市）

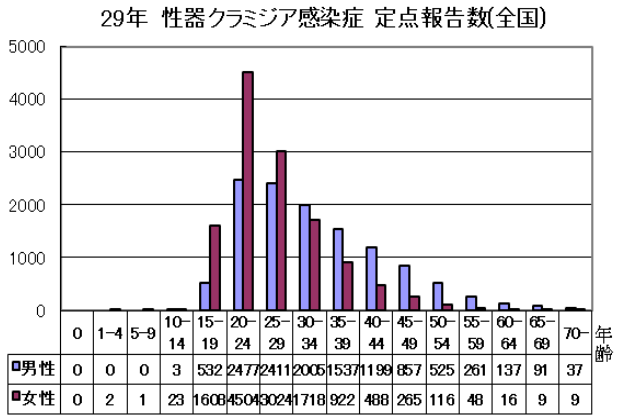


	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
相談	1,978	1,642	1,644	1,594	1,501	1,704	1,738	1,470	892	1,308
検査	1,780	1,522	1,552	1,510	1,426	1,599	1,643	1,399	856	1,269

平成 28 年は、熊本地震の影響で前年の 6 割程度の検査数だった。

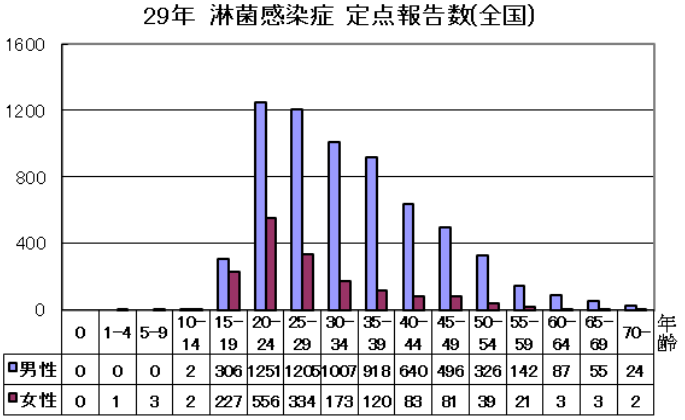
平成 29 年は前年より増加したが、検査体制縮小の影響で 1,269 件にとどまっている。

（５）性器クラミジア・淋菌感染症　定点医療機関報告数（全国・熊本市）



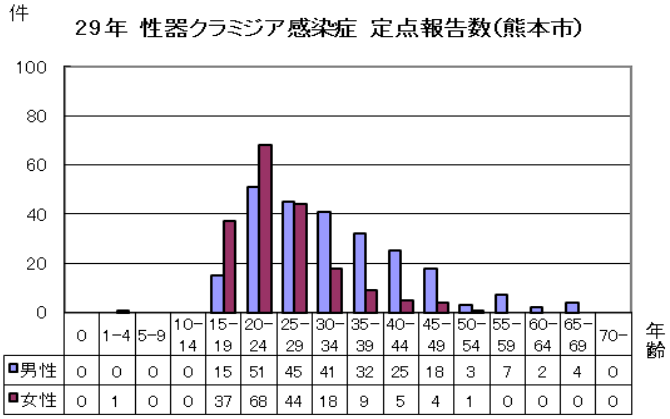
	0	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-
男性	0	0	0	3	532	2477	2411	2005	1537	1199	857	525	261	137	91	37
女性	0	2	1	23	1608	4504	3024	1718	922	488	265	116	48	16	9	9

年齢



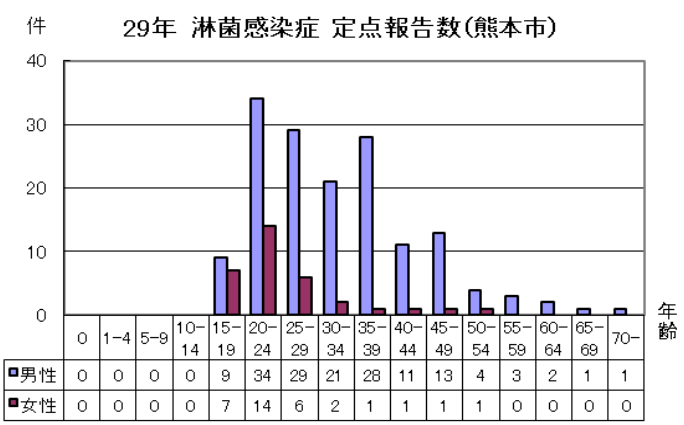
	0	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-
男性	0	0	0	2	306	1251	1205	1007	918	640	496	326	142	87	55	24
女性	0	1	3	2	227	556	334	173	120	83	81	39	21	3	3	2

年齢



	0	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-
男性	0	0	0	0	15	51	45	41	32	25	18	3	7	2	4	0
女性	0	1	0	0	37	68	44	18	9	5	4	1	0	0	0	0

年齢

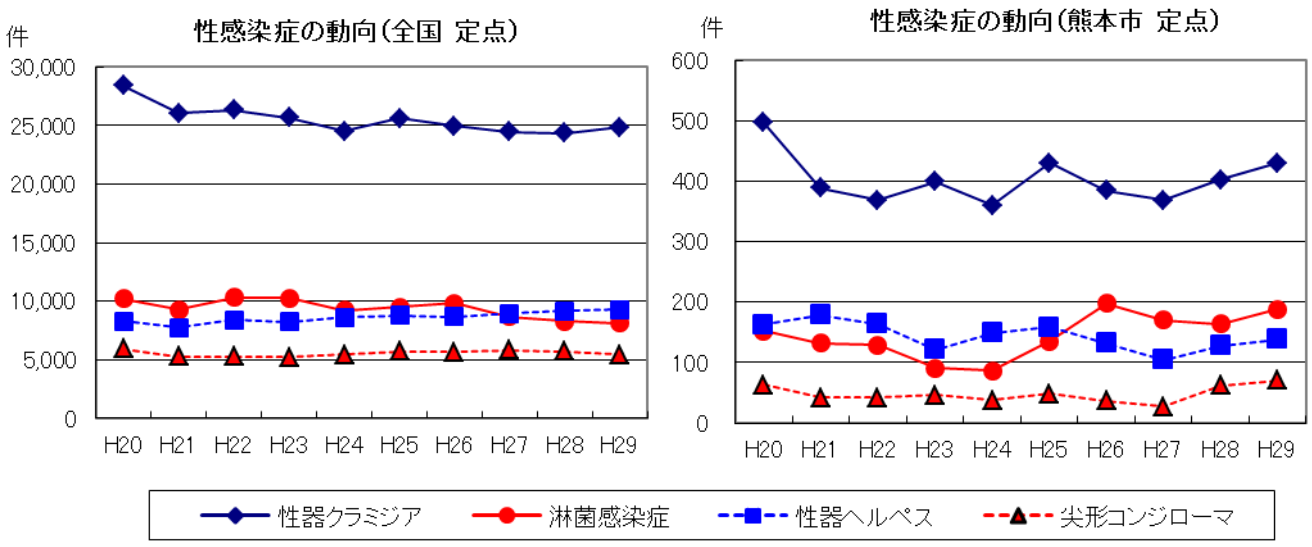


	0	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-
男性	0	0	0	0	9	34	29	21	28	11	13	4	3	2	1	1
女性	0	0	0	0	7	14	6	2	1	1	1	1	0	0	0	0

年齢

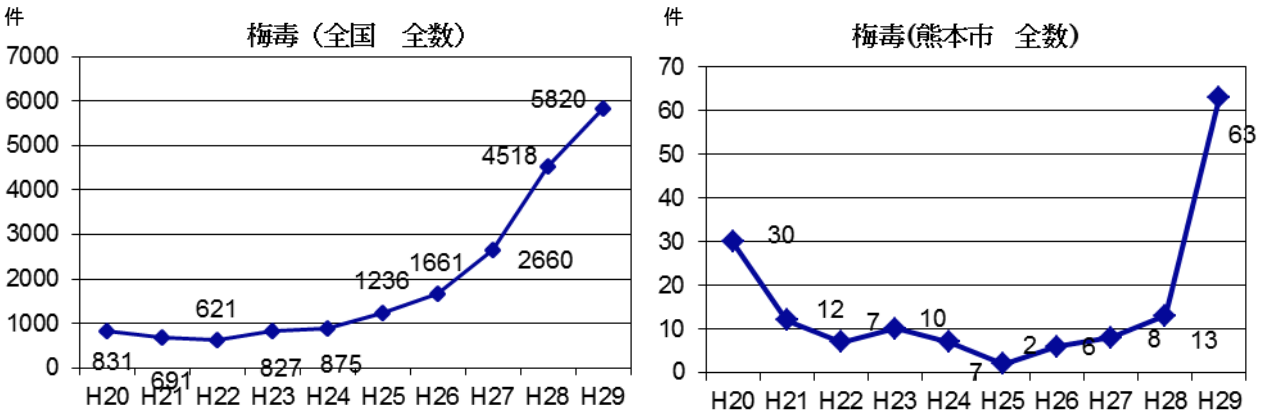
例年同様、性器クラミジアは 10 代後半～20 代の女性が多く、20～30 代の男性も比較的多かった。淋菌感染症は 20～30 代の男性に多かった。

（６）性感染症（定点把握）の動向（全国・熊本市）



全国的に４疾患とも、平成 21 年頃からほぼ横ばいで推移しており、熊本市においても同様の傾向がある。淋菌が 26 年から増加し、横ばいで高止まりしている。

（７）梅毒（全数把握）の動向（全国・熊本市）



全国的に大きく増加している。熊本市でも 29 年度は前年の 4.8 倍と大幅に増加した。

※定点把握：ＳＴＤ定点医療機関から月１回の報告により、発生状況を把握。（熊本市 STD 定点数 6）
※全数把握：梅毒は、診断した医師からの７日以内の届出により把握

出典　（全国、県の統計：厚生労働省エイズ動向委員会によるエイズ発生動向年報及びエイズ動向委員会報告）

３　平成 29 年度　熊本市エイズ対策事業報告

（１）平成 29 年度　熊本市エイズ及び性感染症対策事業

①　正しい知識の普及啓発

個別施策層への対策及び広く一般市民に向けての啓発を行った。

【青少年】教育委員会や学校と連携し、大学生ボランティア等と協力しながら実施した。

【教育関係】

●高校・専門学校への講師派遣事業　8 回　2,200 人（高校 5、専門 3）

●出前講座（性感染症予防講座）　15 回　3,200 人（中学 13、高校 1、専門 1）

●直接依頼による性教育講話　1 回　35 人（児童福祉施設の職員）

●市の教育啓発事業（高校向け）についての情報提供

・熊本県高等学校保健会　熊本市地区養護教諭部会（12 月）

・熊本市立必由館高等学校　学校保健会（2 月）

【啓発活動】

●高校文化祭・大学学園祭でのキャンペーン【別冊２参照】

1 高校　1 日間　91 人（必由館高校）※大学学園祭でのキャンペーンは中止

●アンケート調査による若者の実態把握（高校でのキャンペーン時）　91 人

●ピアエデュケーターとの協働　熊本大学保健学科、養護教諭養成過程学生　10 人

（熊本大学ピアカウンセリンググループ「くまぴあ」）

●高校・専門学校での巡回パネル展「HIV×（日常）×わたし。」　高校 2 校

【啓発物作成・配布・貸出し】

●中学生向けオリジナルパンフレット　改訂・出前講座時に配布　13 校 2,197 部

●啓発物配布　（キャンペーン、研修会、見学実習など）

●パンフレット提供（購入分）　各団体、学校、事業者等へ

●教育用ＤＶＤ貸出し　2 ヶ所　3 回（専門学校、児童相談所）

【外国人】外国人受検者に対し、必要に応じて外国語パンフレットを用いて対応した。

●外国語パンフレット配布

●市ホームページ掲載（英語版）

【ＭＳＭ（男性間で性行為を行う者をいう。以下同じ）】

セクシュアリティに配慮しながら啓発活動や検査相談事業を行っている。また、ＭＳＭ当事者グループとの協働により様々な取り組みを行った。

【ボランティア団体との協働】

熊本のゲイ支援サークル「Safety Blanket」との情報交換やゲイ当事者対象の交流会兼勉強会を企画実施した。【別冊２参照】

●連絡会

・拡大会　3回（9月、11月）：関係者が集まり、それぞれの活動状況等について情報交換を行った。（Safety Blanket、熊本大学医学部附属病院エイズ診療関係者、熊本県、熊本市）

・担当者連絡会　1回：具体的な活動案について意見交換（Safety Blanket、熊本市）

●情報交換（随時）：メールによる情報交換や啓発物作製のための打合せなどを継続

●交流会兼勉強会の開催：当事者のみのクローズで実施。（3回）

●啓発物配布：コンドームやチラシをゲイバーやゲイクラブイベント、茶話会で配布。啓発用消しゴムは、勉強会や茶話会の参加者へ提供。（エイズに関する話題作り）

【相談室】

●パンフレット及びステッカー添付コンドームの陳列（持ち帰り自由）

【ホームページ】

●HIV検査の記事の「リンク集」を、「リンク集（関連情報、ゲイ・バイセクシャル男性向け情報、ほか）」にタイトル変更

【性風俗産業従事者利用者】一般市民へのアプローチを行う中で情報収集や啓発を行っている。

●検査相談利用時に個別に情報提供

●店舗型性風俗特殊営業所の責任者へ保健所窓口でパンフレット等を配布

【薬物乱用者】一般市民へのアプローチを行う中で、情報収集や啓発を行っている。

●情報収集

【一般市民】働く世代の若者を主ターゲットに、関係各課や各種団体、ボランティアグループ等と協力しながら、啓発物の配布・掲示やキャンペーンを行った。

【出前講座】（働く世代）

●事業所等：　3回　185人

【研修会等への協力】　熊本市の現状、啓発の取組み、検査相談体制等について紹介。

●日本エイズ学会学術集会　シンポジウム「地方都市におけるHIV検査アクセスの向上」（東京都中野区、12/25）

●平成29年度ＨＩＶ診療医師情報網支援事業　ＨＩＶ感染予防と早期発見、早期治療に関する打ち合わせ会2017　（熊本大学医学部附属病院、4/25）

●平成29年度 HIV 感染症/AIDS 症例検討会（熊本大学医学部附属病院、3/22）

【医療関係者への情報提供】

●熊本市予防接種説明会（3/8,16）にて、エイズ予防指針の全部改定と熊本の現状について情報提供

【マスコミ】

●広報：ラジオ9回

●市政だより：6月号、12月号、3月号

●取材対応　・テレビ2回　・新聞（報道、連載、大学生との取り組み紹介）8回

【啓発物作製・配布】

●ＨＩＶ検査案内チラシ・カードの作製・配布　　随時

●梅毒注意喚起チラシ作製・配布　　各区保健子ども課、学校、自動車学校、皮膚科・泌尿器科・産婦人科へ送付

●エイズ予防啓発ポスター

・ＨＩＶ検査普及週間･エイズデー啓発ポスターによる啓発　2回

・特例検査お知らせポスターの掲示・送付　4回

●ウェルパルくまもと1階ロビーに啓発パンフレットを配置（常時）

●保健所、区役所でのパンフレット・啓発物配布（必要時）

●ＨＩＶ検査広報ステッカー作成・掲示

・本庁舎トイレ、ウェルパルくまもとトイレ、市電・バス車内への掲示（継続）

・事業所、学校等への提供　　随時

【イベント】

●学校保健会主催イベント「からだの楽校」での啓発キャンペーン　【別冊２参照】

・12/1(土)　熊本市学校保健会（健康教育課）主催イベントにて、熊本市の若者によるエイズ啓発グループ Safe LOVE Kumamoto との協働によりキャンペーンを実施。ボランティア（学生）１１人が参加。

・（内容）ブースでの啓発（エイズクイズ、パネル展示)、ステージ発表（アンケート調査発表、ファッションショー）

●エイズフォーラム「世界で熊本で、今、エイズについて考える」【別冊２参照】

・12/16（土）ＪＩＣＡ九州デスク熊本との共同企画により実施した。

・（内容）講演会、ワークショップ、啓発物配布、パネル展

●巡回パネル展「HIV×（日常）×わたし。」

・森都心プラザ図書館（12 月)、イベント・研修会会場等 6 回、市外 2 ヶ所

・ウェルパルくまもと１階玄関ホール（6 月、12 月）

【ホームページ】

●熊本市ホームページ及び携帯電話ホームページサイトを利用した情報発信､ホームページ内容の改善・随時更新

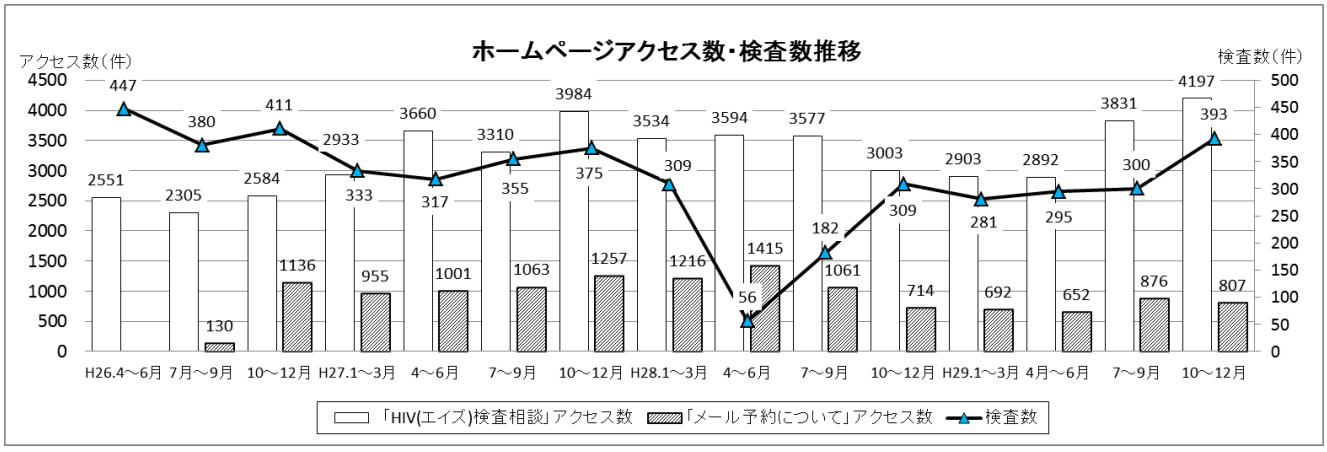
※熊本市ホームページ内「ＨＩＶ（エイズ）検査のお知らせ」(スマートフォン対応)

URL　https://www.city.kumamoto.jp/hpkiji/pub/Detail.aspx?c_id=5&id=3355

●アクセス数（件）　（スマートフォン用 QR コード⇒）

「熊本市ＨＩＶ（エイズ）検査相談」 29 年　13,823（月あたり約 1,152 件）

「メール予約について」　29 年　3,027（月あたり約　252 件）



※26 年 4 月ホームページリニューアル

②相談検査体制の充実

【検査相談体制】

●エイズ相談・検査　　熊本地震による業務縮小の影響により、定例の日曜・夜間検査を休止し、通常検査を予約制で行っている。

通常検査（予約制）	月～金曜日	9：00～11：00
即日検査（予約制）	月～金曜日	13：00～15：00

●特例検査・臨時検査　土曜・日曜・夜間の検査を臨時で行った。

・6 月 11 日（日）　13：00～14：00　予約不要の即日検査　受検者　51 人

・10 月 3 日（火）　17：30～19：30　予約制の即日検査　　受検者　19 人

（定員：20 人）

・12 月 10 日（日）　13：00～14：00　予約不要の即日検査　受検者　47 人

・3 月 10 日（土）　13：00～14：00　予約不要の即日検査　受検者　21 人

※6 月、12 月、3 月の検査は定員なし

●メール予約　平日午後（13：00～15：00）の即日検査が対象

・利用実績 29 年：予約成立数　173 件（平日即日検査数 1069 件の 16.2%）

※メールでの問合せ数（予約不成立含む）225 件

【29 年実績（件）】

相談数 1,308　検査数 1,269　　ｸﾗﾐｼﾞｱ抗体検査 1,121、梅毒検査 1,163

・夜間（再掲）相談　19　検査　19　　・日曜（再掲）相談　121　検査　120

・即日（再掲）相談 1,070　　検査 1,069

【相談業務の充実（研修会参加）】

●「ＨＩＶ 検査相談研修会（東京）」エイズ予防財団　8/24,25（2 日間）1 名

●「九州ブロックエイズ拠点病院研修会」国立病院機構九州医療センター

9/29（1 日間）1 名

●「LGBT に関する相談員研修」熊本市男女共同参画課主催　3/5（1 時間）　2 名

③医療体制及び生活支援体制

【医療体制】　検査陽性時に拠点病院の受診に同伴（希望時）
感染者・医療担当者との情報交換
【生活支援体制】必要時、ホームヘルパー等にHIVに対する正しい知識を提供
【福祉制度】　身体障害者手帳及び更生医療による医療費助成・福祉サービス
※申請窓口：障がい保健福祉課

④推進体制の整備

【熊本市エイズ総合対策推進会議】　会議を8月に開催、3月に報告書作成、エイズ対策の目標値（指標）の実動計画､実施
【NGOとのパートナーシップ推進】
ボランティア団体との協働、情報提供（研修会など）

（２）平成 25～29 年度　ＨＩＶ感染および性感染症の予防対策（評価）

指標及び目標値

①　HIV 抗体検査数の増加

平成 29 年の検査数　1,780 件（過去最多の平成 20 年の件数）

（現状）平成 24 年：1,426 件　⇒　（目標）平成 29 年：1,780 件

②　性器クラミジア感染症報告数の減少

平成 29 年の報告数　324 件（平成 24 年報告数の 10%減）

（現状）平成 24 年：360 件　⇒　（目標）平成 29 年：324 件

①HIV 抗体検査数の増加

【施策（実施内容）】

●相談検査体制の充実

・予約不要の休日検査（特例検査）を実施

・プライバシーに配慮した体制、相談員研修の充実、メールによる予約受付

●検査に関する広報の充実

・ホームページ改善、ポスター、ステッカー、検査啓発カード等の作成・配布

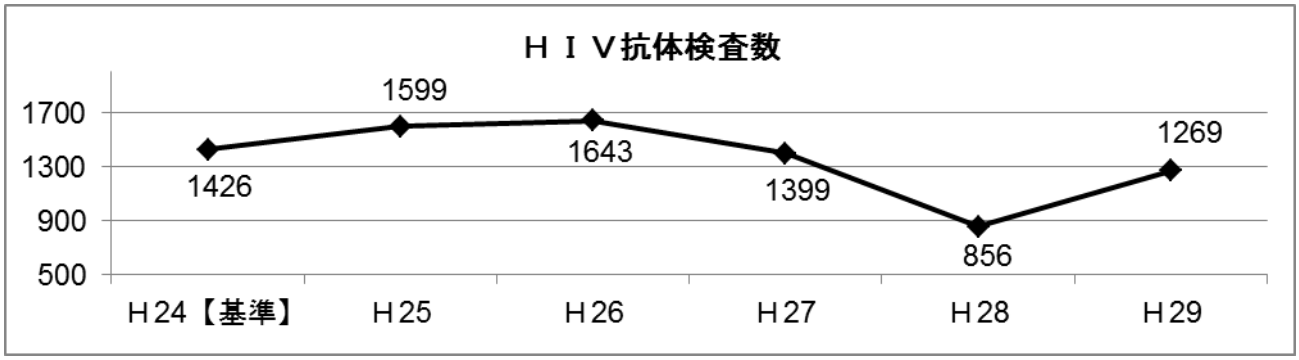
・高校・専門学校への講師派遣時に感染症対策課職員が熊本での現状と検査について講話

・学校でのキャンペーンや街頭キャンペーンでのアピール

・Safety　Blanket による広報（SNS 等）、ゲイコミュニティへの啓発物配布

【実績】平成 25 年、26 年と 2 年連続で増加し、27 年は前年比 15%減に落ち込んだ。原因は不明だが、全国的にも同様に減少した。28 年以降は熊本地震の影響により、検査体制を縮小しており、目標は達成できなかった。

年	H24(基準)	H25	H26	H27	H28	H29
ＨＩＶ抗体検査数（件）	**1,426**	**1,599**	**1,643**	**1,399**	**856**	**1,269**
(再掲)通常検査（件）	335	399	414	283	228	200
(再掲)即日検査（件） (検査数に占める即日検査の割合)	1,091 (76.5%)	1,200 (75.0%)	1,229 (74.8%)	1,116 (79.8%)	628 (73.4%)	1,069 (84.2%)
エイズ相談数（件）	1,501	1,704	1,738	1,470	892	1,308



【評価】平成２８年以降は熊本地震の影響で検査数が減少しているが、新規感染者・患者の報告数が増加しており、これまでの啓発等の効果が出ているものと評価できる。今後は、検査数の増加だけでなく、リスクグループ（青少年、MSM 等）の利用をいかに増やしていくかに焦点を当てた取組みを行っていく必要がある。

②性器クラミジア感染症報告数の減少

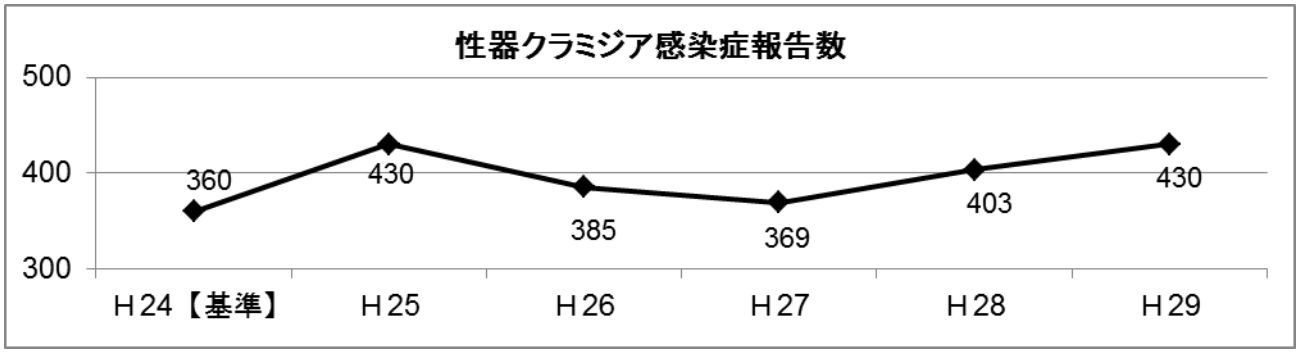
【施策（実施内容）】

●性感染症予防教育の実施：中学 3 年生、高校生等への出前講座、高校への講師派遣事業、保護者や企業等への研修会等のアプローチ

●高校・専門学校への講師派遣時に感染症対策課職員が熊本での現状と検査について講話

【実績】平成 25 年に増加した後、27 年には基準値と同程度まで減少したが、29 年には 430 件となり、目標は達成できなかった。

年	H24(基準)	H25	H26	H27	H28	H29
性器クラミジア感染症報告数（件）	360	430	385	369	403	430



【評価】年 400 件程度で横ばい傾向で推移した。全国的にも性器クラミジア感染症報告数は横ばい傾向が続いている。今後も引き続き報告数減少に向けて取り組む必要がある。

（３）平成 29 年度　検査利用者の状況について

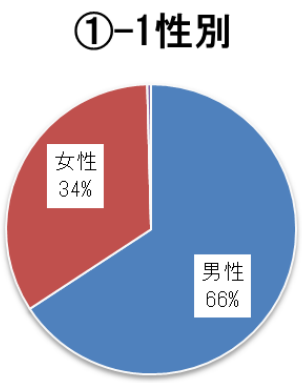
本市保健所で HIV 検査を受けた方へ、結果通知後に任意でアンケート調査を行っている。

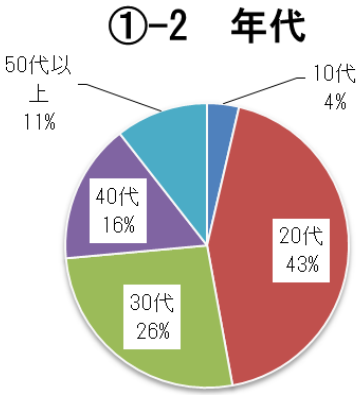
今回、平成 29 年 6 月から平成 30 年 2 月に即日検査を利用した方（特例検査除く）のアンケート結果を集計した。

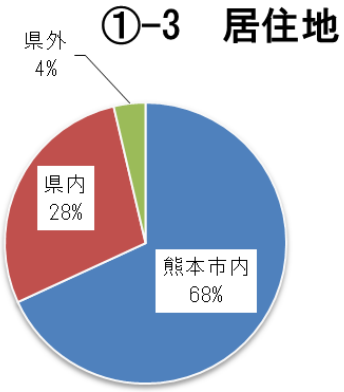
その結果、30 代以下の利用が 7 割以上あり、ターゲットとしている若い世代への啓発が比較的効果的にできていると考えられた。検査を知ったきっかけとしては、インターネットが最も多いことから、今後も、ホームページの工夫や、SNS 等を活用した啓発を続けることが望ましい。また、約 3 割の方が 2 回以上、本市保健所を利用しており、安心して受けられる体制であることが浸透していることが示唆された。

【アンケート結果】アンケート回答数　671 件（検査数 710 件、回答率 94.5%）

①利用者の属性：男性が全体の 66%を占めていた。10 代では女性の割合が多く、20 代は男女同程度、30 代以上は男性の割合が多い傾向にあった。全体の 68%が市内にお住まいの方だった。

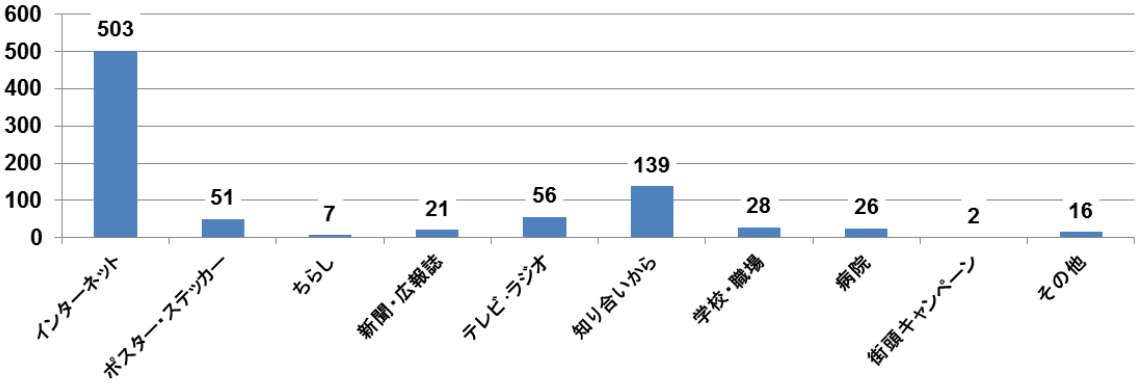






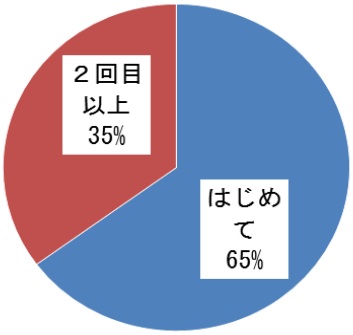
②検査を知ったきっかけ：インターネットが最も多く、次いで知り合いから（口コミ）が多い。インターネット検索に至った背景として、潜在的にはポスターやチラシ、報道等による広報の効果もあると考えられる。

②検査を知ったきっかけ

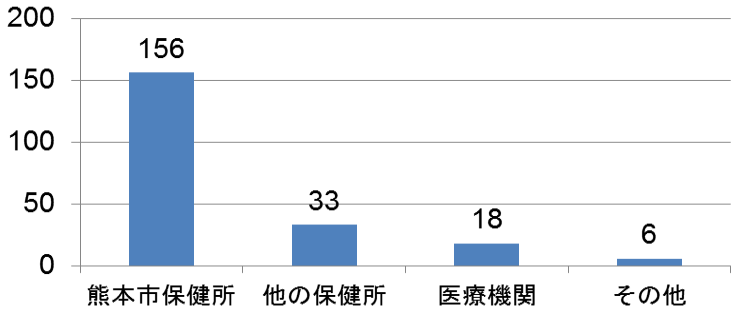


③受検回数：65%の方がはじめて検査を受けていた。２回目以上の方は、ほとんどが本市保健所を利用しており、定期的な受検ができていると考えられた。また、他の保健所や医療機関との回答もあり、ニーズに合わせて様々な検査の機会を利用していた。

③受検回数



（２回目以上の方）これまで検査を受けたことのある場所



【今後について】

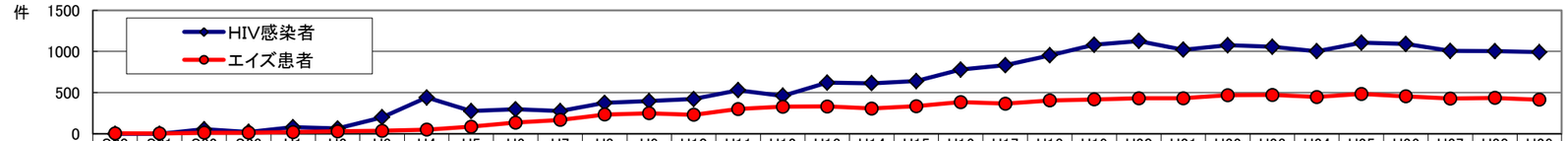
・今後も若い世代への啓発・教育を継続するとともに、各関係機関やボランティアグループ等と連携して効果的な啓発方法を検討していく。

・検査体制の整備については、引き続き、市民の利便性に配慮して行っていく。特に、リスクがあると考えられる方への対応等については、有識者の意見等も参考にしながら実施していく。

（参考資料）統計「エイズ及び性感染症の動向」

■全国のHIV感染者・エイズ患者報告数推移

1．年次推移（全国）

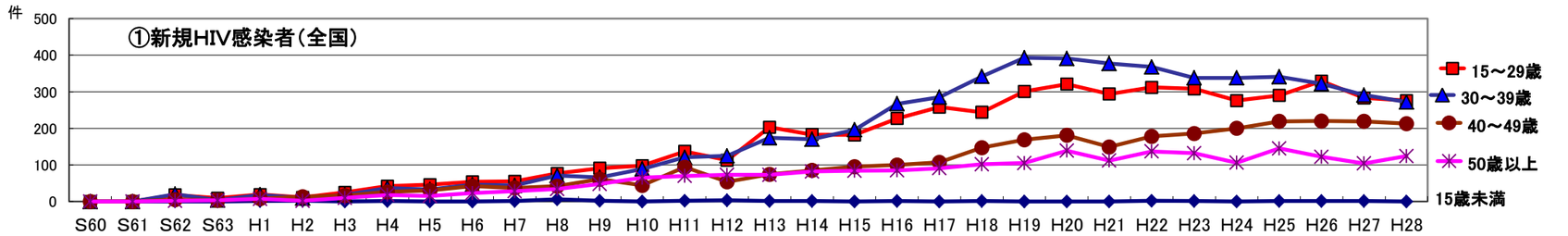


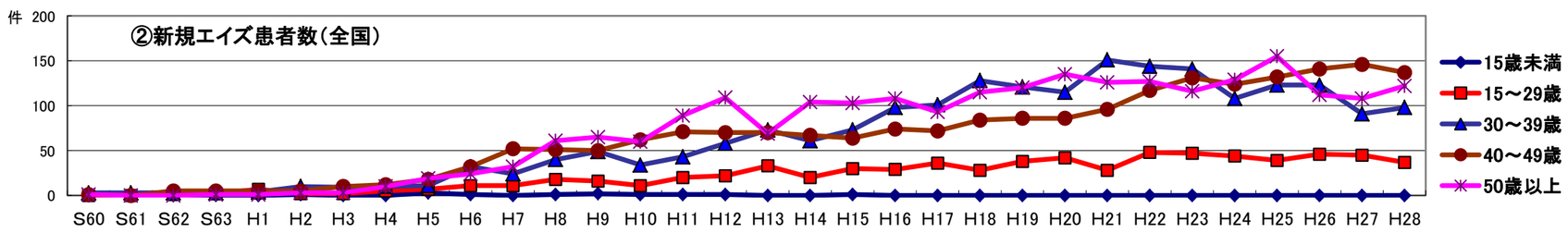
	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
HIV感染者	0	0	55	23	80	66	200	442	277	298	277	376	397	422	530	462	621	614	640	780	832	952	1082	1126	1021	1075	1056	1002	1106	1091	1006	1003	992
エイズ患者	6	5	14	14	21	31	38	51	86	136	169	234	250	231	301	329	332	308	336	385	367	406	418	431	431	469	473	447	484	455	428	437	415

累計
19,912
8,938
感染者患者累計
28,850

※H29速報値

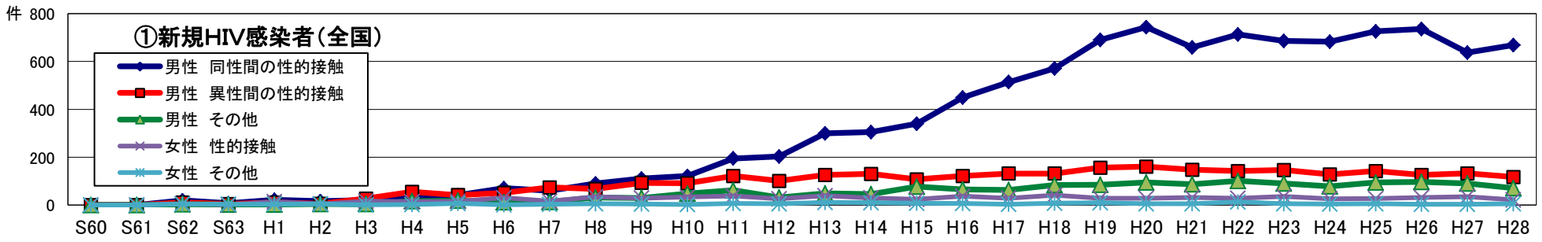
2．年齢階級別推移 （日本国籍のみ）

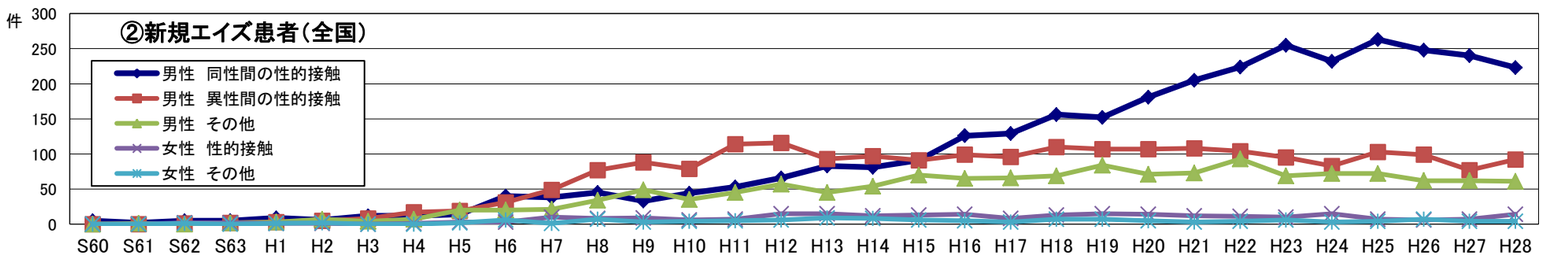




3．感染経路別推移 （日本国籍のみ）

※同性間は両性間を含む。その他は不明を含む。

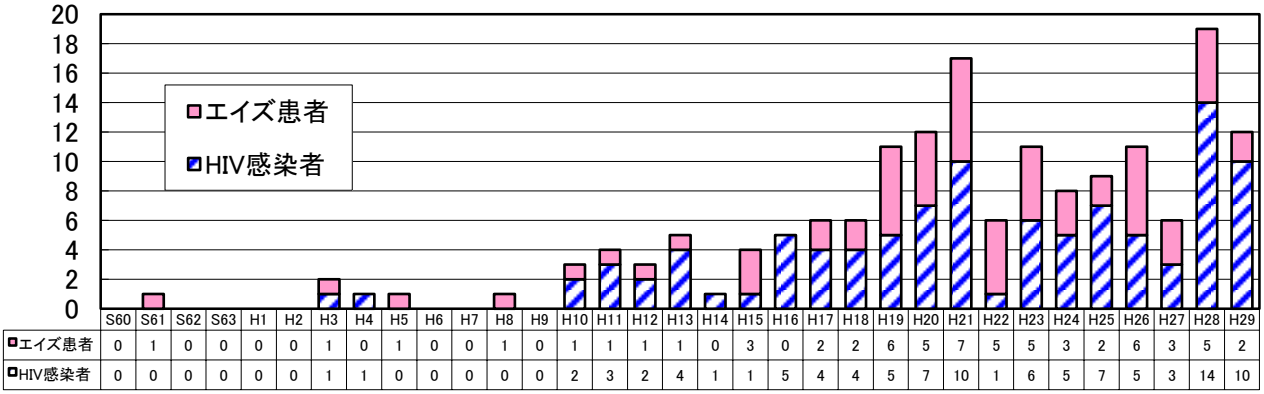




出典 1～3：厚生労働省エイズ動向委員会によるエイズ発生動向年報及びエイズ動向委員会報告

■熊本県のHIV感染者・エイズ患者報告数推移

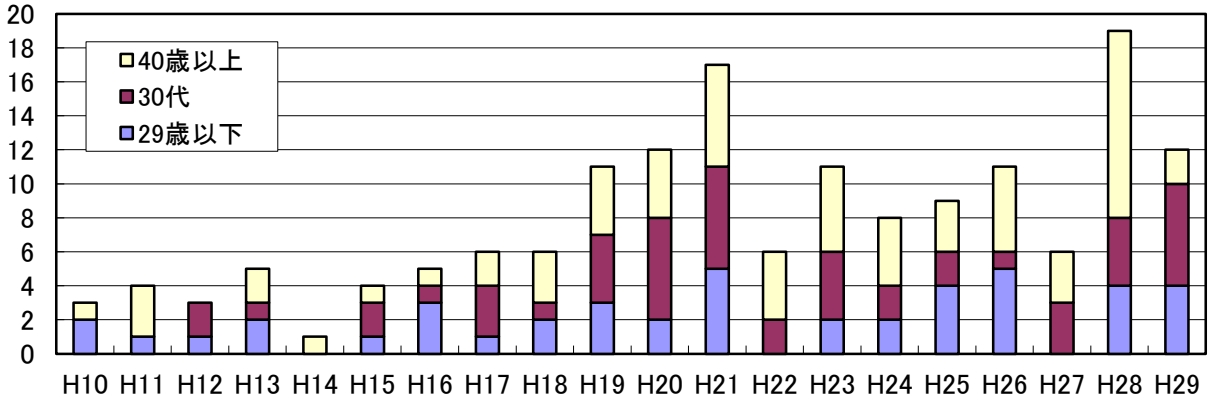
4. 熊本県のHIV感染者・エイズ患者報告数の年次推移



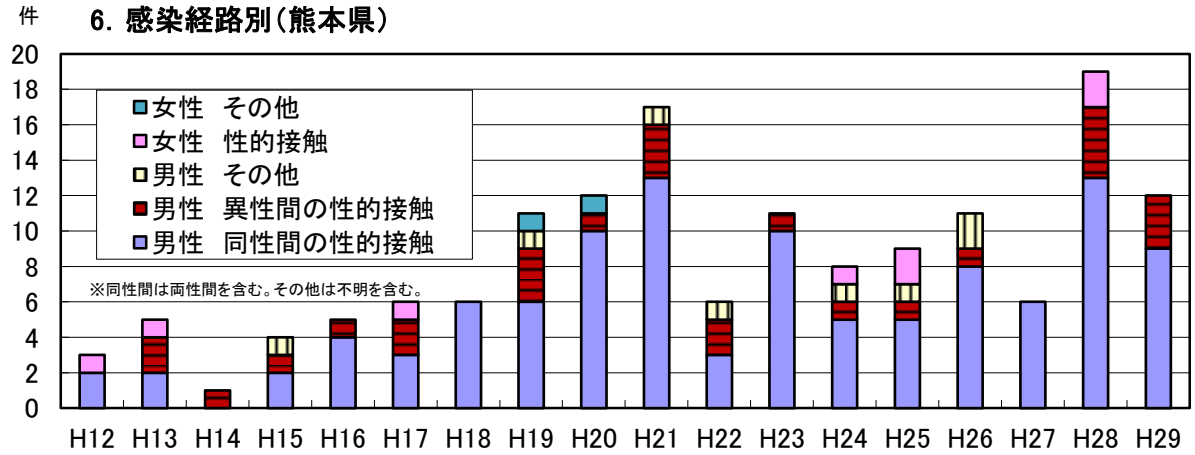
	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
エイズ患者	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	1	1	1	0	3	0	2	2	6	5	7	5	5	3	2	6	3	5	2
HIV感染者	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	3	2	4	1	1	5	4	4	5	7	10	1	6	5	7	5	3	14	10

感染者累計	101
患者累計	64
感染者患者累計	165

5. 年齢階級別推移（熊本県）



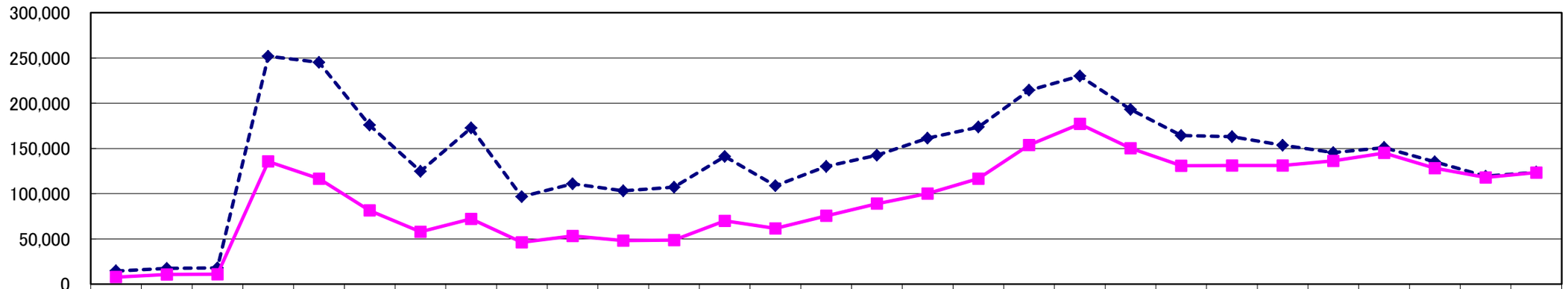
6. 感染経路別（熊本県）



出典　4～6:感染症発生動向調査事業

■エイズ相談・検査数推移

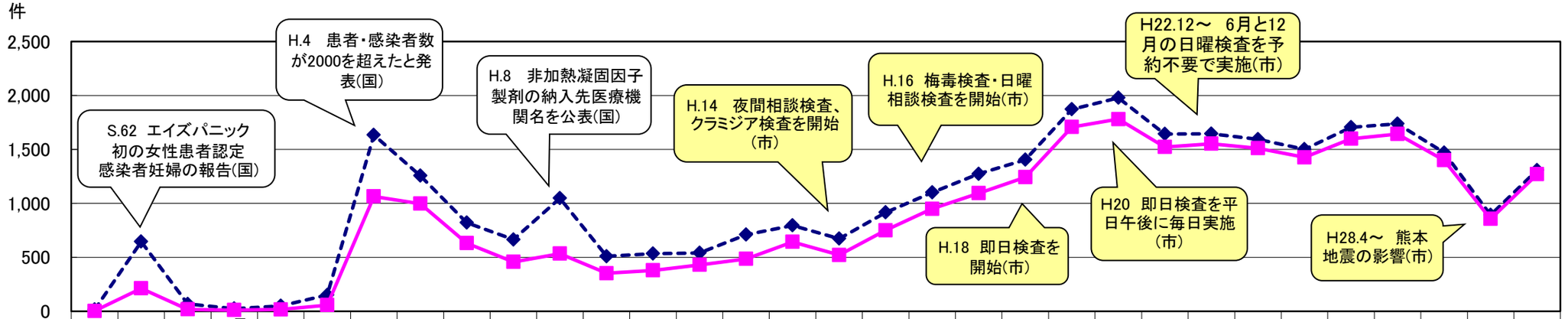
7. 保健所などにおけるエイズ相談・検査件数(全国)



	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
相談	14603	17458	18002	251926	245299	175837	124735	172641	96735	111046	103206	107266	141269	108907	130144	142451	161474	173651	214347	230091	193271	164264	163006	153583	145401	150993	135282	119378	123768
検査	7864	10649	10980	135674	116712	81495	57978	72186	46237	53218	48218	48754	69925	61652	75539	89004	100287	116550	153816	177156	150252	130930	131243	131235	136400	145048	128241	118005	123432

出典　7　:厚生労働省エイズ動向委員会によるエイズ発生動向年報及びエイズ動向委員会報告

8. 熊本市　エイズ相談・検査数の推移



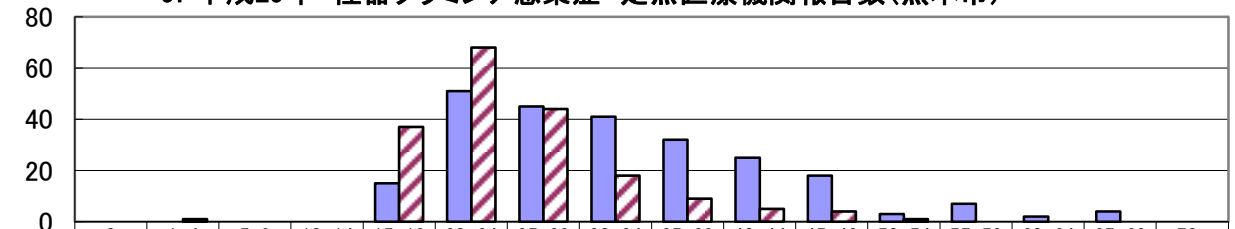
	S61	S62	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
相談	15	645	67	24	50	150	1633	1256	820	664	1048	509	534	540	709	795	673	916	1101	1273	1403	1872	1978	1642	1644	1594	1501	1704	1738	1470	892	1308
検査	2	212	18	10	16	57	1064	997	630	457	534	352	378	430	485	642	521	750	949	1094	1241	1707	1780	1522	1552	1510	1426	1599	1643	1399	856	1269

■性感染症の発生動向

※定点把握：STD定点医療機関から月１回の報告により発生状況を把握
（平成25年1月から熊本市のSTD定点数が5から6に増加）

件

9. 平成29年　性器クラミジア感染症　定点医療機関報告数(熊本市)

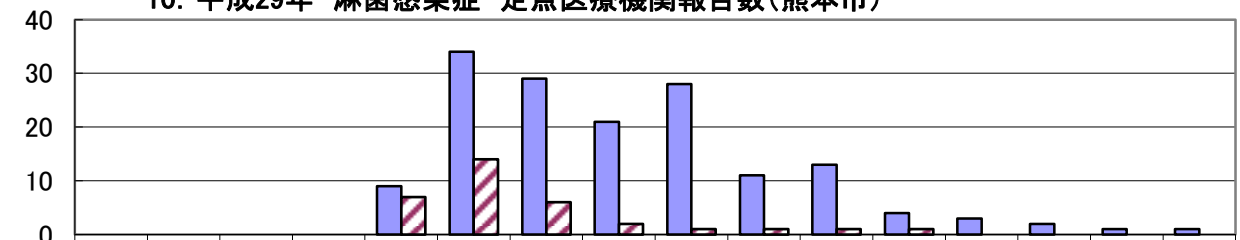


	0	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-
男性	0	0	0	0	15	51	45	41	32	25	18	3	7	2	4	0
女性	0	1	0	0	37	68	44	18	9	5	4	1	0	0	0	0

年齢

件

10. 平成29年　淋菌感染症　定点医療機関報告数(熊本市)

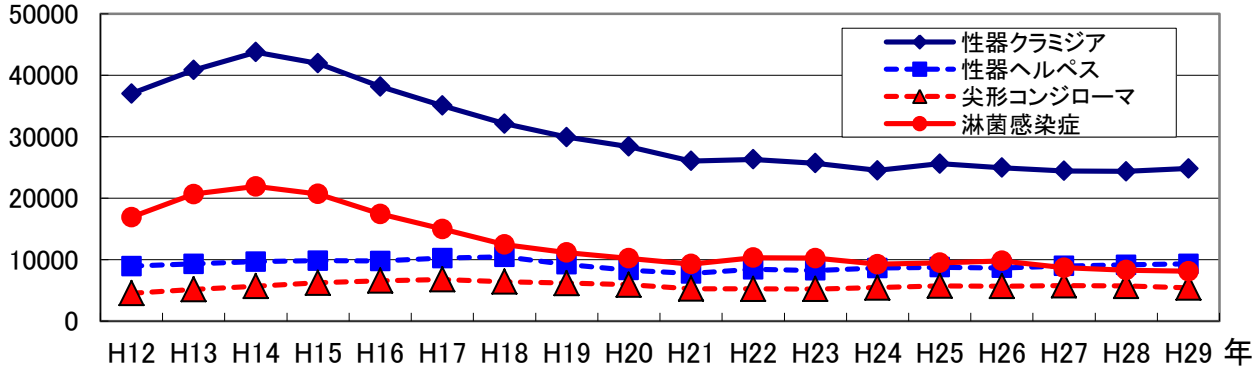


	0	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-
男性	0	0	0	0	9	34	29	21	28	11	13	4	3	2	1	1
女性	0	0	0	0	7	14	6	2	1	1	1	1	0	0	0	0

年齢

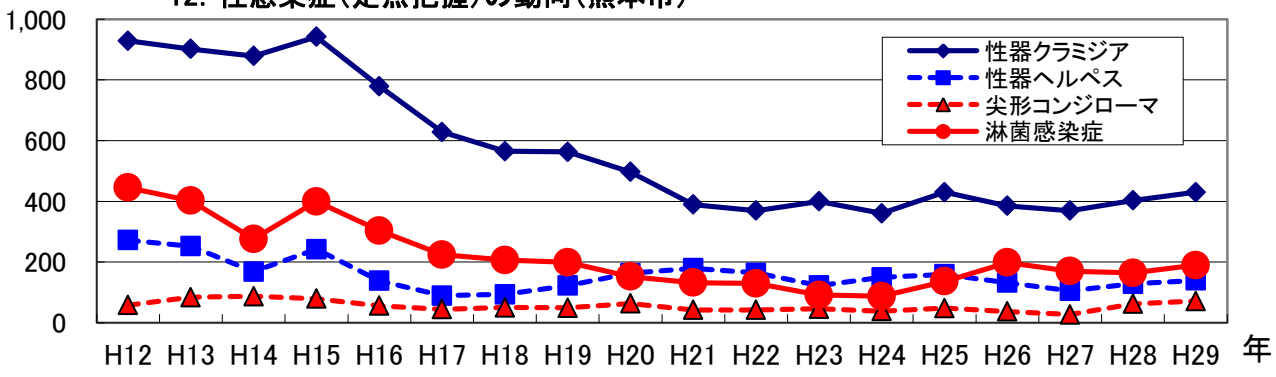
件

11. 性感染症(定点把握)の動向(国)



件

12. 性感染症(定点把握)の動向(熊本市)

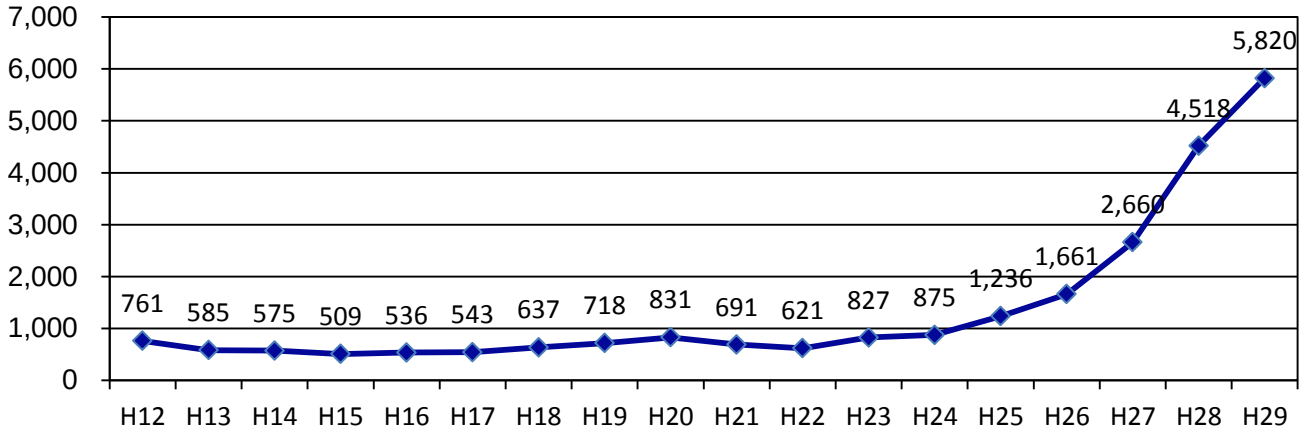


出典　11 :感染症発生動向調査事業

■梅毒の動向

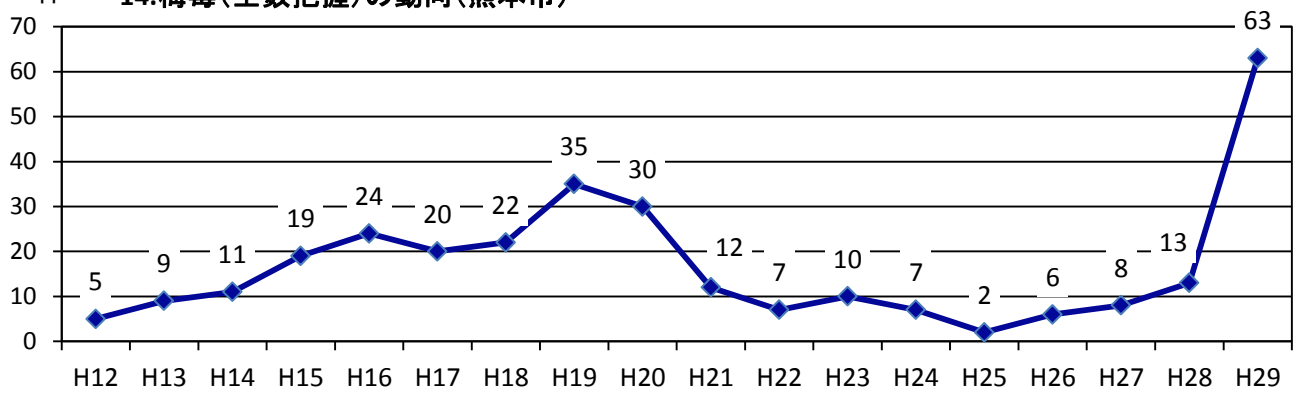
※全数把握：診断した医師からの７日以内の届出により全数を把握

件　**13.梅毒（全数把握）の動向（国）**

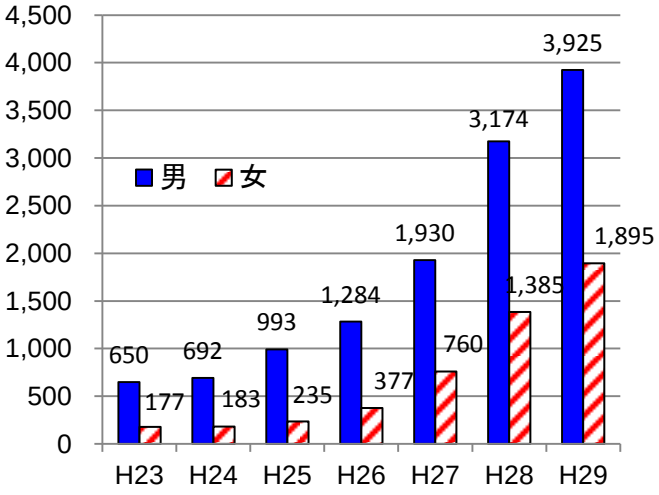


出典　13 、15:感染症発生動向調査事業

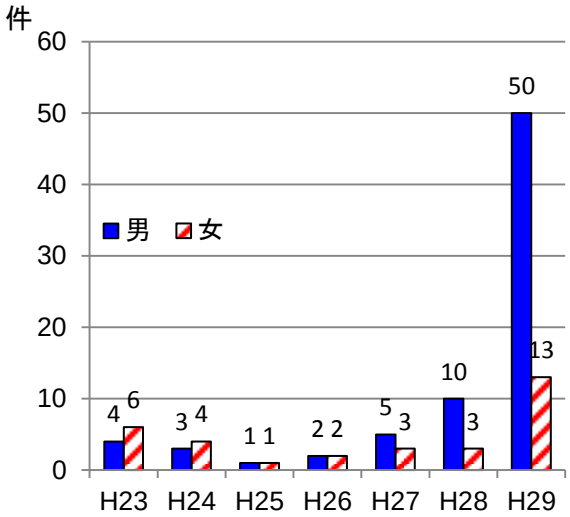
件　**14.梅毒（全数把握）の動向（熊本市）**



件　**15.梅毒の動向（男女別・国）**



16.梅毒の動向（男女別・熊本市）



平成３０年3月１６日

第150回エイズ動向委員会
委 員 長 コ メ ン ト

《平成２９年第３・第４四半期》

【概要】

１．今回の報告期間は平成29年6月26日～平成29年9月24日（以下A、前年同時期をαとする）
平成29年9月25日～平成29年12月31日（以下B、前年同時期をβとする）の約半年

２．新規ＨＩＶ感染者報告数は（A）245件及び（B）241件（(α)261件及び(β)253件）

３．新規ＡＩＤＳ患者報告数は（A）110件及び（B）122件（(α)113件及び(β)110件）

４．ＨＩＶ感染者とＡＩＤＳ患者を合わせた新規報告数は（A）355件及び（B）363件

【感染経路・年齢等の動向】

１．新規ＨＩＶ感染者：
○ 同性間性的接触によるものが（A）174件及び（B）178件
（新規ＨＩＶ感染者報告数の（A）約71%及び（B）約74%）
○ 異性間性的接触によるものが（A）35件及び（B）31件
（新規ＨＩＶ感染者報告数の（A）約14%及び（B）約13%）
そのうち（A）は男性30件、女性5件（B）は男性25件、女性6件
○ 静注薬物によるものは(A) 2件及び(B) 1件
○ 母子感染によるものは(A) 2件及び(B) 1件
○ 年齢別では、 20～40代が多い。

２．新規ＡＩＤＳ患者：
○ 同性間性的接触によるものが（A）60件及び（B）70件
（新規ＡＩＤＳ患者報告数の（A）約55%及び（B）約57%）
○ 異性間性的接触によるものが（A）35件及び（B）31件
（新規ＡＩＤＳ患者報告数の（A）約32%及び（B）約25%）
そのうち（A）は男性27件、女性8件（B）は男性22件、女性9件
○ 静注薬物によるものは（A）、（B）共に0件
○ 母子感染によるものは（A）、（B）共に0件
○ 年齢別では、30～40代が多い。

【検査・相談件数の概況（平成29年7月～12月）】

１．保健所におけるＨＩＶ抗体検査件数は（A）22,906件及び（B）25,511件
（前年同時期確定値(α)21,045件及び(β)24,249件）
自治体が実施する保健所以外の検査件数は（A）7,779件及び（B）8,617件
（前年同時期確定値(α)6,981件及び(β)7,968件）

２．保健所等における相談件数は（A）31,447件及び（B）33,069件
（前年同時期確定値(α)29,263件及び(β)31,123件）

【献血の概況（平成29年1月～12月）】

１．献血件数（速報値）は、4,775,648件（前年同時期4,841,601件）

２．そのうちＨＩＶ抗体・核酸増幅検査陽性件数（速報値）は43件（前年同時期48件）
10万件当たりの陽性件数（速報値）は、0.900件（前年同時期0.991件）

《まとめ》

1．平成２９年の新規ＨＩＶ感染者報告数を前年同時期と比較すると、第3、第4四半期共に前年同時期より減少していた。新規ＡＩＤＳ患者報告数については、第3は前年同時期より減少し、第4四半期共に前年同時期より増加していた。

2．これまでと同様、平成２９年下半期の新規ＨＩＶ感染者は20～40代、新規ＡＩＤＳ患者は30～40代で報告数が多かった。平成２９年度第３及び第４四半期に、母子感染が報告された。一方で、70歳以上の新規HIV感染者及び新規エイズ患者も報告されており、幅広い年齢層の報告がある。

3．平成２９年第３四半期及び第４四半期の保健所等におけるＨＩＶ抗体検査件数及び相談件数は前年同時期に比して増加していた。早期発見は個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつくので、今後も保健所等の無料・匿名ＨＩＶ抗体検査及び相談を積極的に利用していただきたい。

《平成２９年　年間報告（速報値）》

【概要】

１．今回の報告期間は平成 28 年 12 月 26 日～平成 29 年 12 月 31 日までの約１年（四半期ごと速報値の合計）
２．新規ＨＩＶ感染者報告数は 992 件で過去 11 位
３．新規ＡＩＤＳ患者報告数は 415 件で過去 11 位
４．ＨＩＶ感染者とＡＩＤＳ患者を合わせた新規報告数は 1,407 件で過去 11 位

【感染経路・年齢等の動向（速報値）】

１．新規ＨＩＶ感染者：
　○ 同性間性的接触によるものが 724 件（全ＨＩＶ感染者報告数の約 73%）
　○ 異性間性的接触によるものが 150 件（全ＨＩＶ感染者報告数の約 15%）
　○ 静注薬物によるものは 3 件
　○ 母子感染によるものは 3 件
　○ 年齢別では、特に 20～40 代が多い 。
２．新規ＡＩＤＳ患者：
　○ 同性間性的接触によるものが 230 件（全ＡＩＤＳ患者報告数の約 55%）
　○ 異性間性的接触によるものが 103 件（全ＡＩＤＳ患者報告数の約 25%）
　○ 静注薬物によるものは 1 件
　○ 母子感染によるものは 1 件
　○ 年齢別では、特に 30 歳以上が多い。なお、50 歳以上が約 29%を占めている。

【検査・相談件数の概況（平成 29 年 1 月～12 月）】

１．保健所等におけるＨＩＶ抗体検査件数（確定値）は 123,432 件で過去 11 位
２．保健所等における相談件数（確定値）は 123,768 件で過去 20 位

《まとめ》

１.平成29年は速報値ではあるが､新規ＨＩＶ感染者報告数及び新規ＡＩＤＳ患者報告数は平成28年より減少した。

２．新規ＨＩＶ感染者及び新規ＡＩＤＳ患者報告の感染経路は、性的接触によるものが８割以上で、男性同性間性的接触によるものが多い。ＨＩＶ感染症は予防が可能な感染症である。ＨＩＶに感染していない者においては、適切な予防策をとること、ＨＩＶに感染した者においては、まずは自分の感染を知ることが、個人においては早期治療に、社会においては感染の拡大防止に結びつくことから、重要となる。国民の皆様には、性感染症を含め、保健所の無料・匿名での相談や検査の機会を積極的に利用いただきたい。

３．速報値ではあるが、３年ぶりに複数の母子感染の報告があった。母子感染の防止には、妊婦に対するＨＩＶ抗体検査の実施や抗ウイルス療法等が重要である。妊婦健診を確実に受診していただき、医師の指示に従っていただきたい。また、妊娠中にも、性感染症に罹るリスクがあることを知っていただいた上で、適切な予防行動を取っていただきたい。

４．速報値ではあるが、献血における１０万件当たりの陽性者件数は昨年に比して減少した。血液製剤によるＨＩＶ感染を防ぐため、ＨＩＶ感染症が疑われる場合、国民の皆様には保健所等での無料・匿名検査を積極的に利用いただきたい。

５．新規ＨＩＶ感染者・ＡＩＤＳ患者報告数に占めるＡＩＤＳ患者報告数の割合は、約３割のまま推移している。早期発見は個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつく。自治体におかれては、エイズ予防指針を踏まえ、引き続き利便性に配慮した検査相談体制を推進していただきたい。

感染症法に基づくHIV感染者・エイズ患者情報

平成29年12月31日現在のHIV感染者及びエイズ患者の国籍別、性別、感染経路別報告数の累計

診断区分	感染経路	日本国籍			外国国籍			合計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
HIV感染者	合計	15,654	962	16,616	1,766	1,460	3,226	17,420	2,422	19,842
	異性間の性的接触	3,013	781	3,794	458	859	1,317	3,471	1,640	5,111
	同性間の性的接触*1	11,027	4	11,031	754	1	755	11,781	5	11,786
	静注薬物使用	41	2	43	30	3	33	71	5	76
	母子感染	18	10	28	6	9	15	24	19	43
	その他*2	304	40	344	65	28	93	369	68	437
	不明	1,251	125	1,376	453	560	1,013	1,704	685	2,389
エイズ患者	合計*3	7,164	398	7,562	930	416	1,346	8,094	814	8,908
	異性間の性的接触	2,232	264	2,496	306	231	537	2,538	495	3,033
	同性間の性的接触*1	3,485	3	3,488	186	2	188	3,671	5	3,676
	静注薬物使用	28	4	32	27	3	30	55	7	62
	母子感染	9	3	12	1	6	7	10	9	19
	その他*2	179	24	203	28	16	44	207	40	247
	不明	1,231	100	1,331	382	158	540	1,613	258	1,871
HIV感染者+エイズ患者 合計		22,818	1,360	24,178	2,696	1,876	4,572	25,514	3,236	28,750
凝固因子製剤による感染者*4		1,421	18	1,439	―	―	―	1,421	18	1,439

＊１　両性間性的接触を含む。
＊２　輸血などに伴う感染例や推定される感染経路が複数ある例を含む。
＊３　平成11年3月31日までの病状変化によるエイズ患者報告数154件を含む。
＊４「血液凝固異常症全国調査」による2016年5月31日現在の凝固因子製剤による感染者数

※死亡者報告数

感染症法施行後の任意報告数（平成11年4月1日～平成28年12月31日）	373 名
エイズ予防法*5に基づく法定報告数（平成元年2月17日～平成11年3月31日）	596 名
凝固因子製剤による感染者の累積死亡者数*6	711 名

＊５　エイズ予防法第5条に基づき、血液凝固因子製剤による感染者を除く。
＊６「血液凝固異常症全国調査」による2016年5月31日現在の報告数

感染症法に基づくHIV感染者・エイズ患者情報

HIV感染者及びエイズ患者の都道府県別累積報告状況

（平成29年9月25日～平成29年12月31日）

ブロック名		都道府県名	HIV感染者 今回 報告地	HIV感染者 今回 〔居住地〕	HIV感染者 前回 報告地	HIV感染者 前回 〔居住地〕	HIV感染者 累計 報告地	HIV感染者 累計	HIV感染者 累計 〔居住地〕	HIV感染者 累計	エイズ患者 今回 報告地	エイズ患者 今回 〔居住地〕	エイズ患者 前回 報告地	エイズ患者 前回 〔居住地〕	エイズ患者 累計 報告地	エイズ患者 累計	エイズ患者 累計 〔居住地〕	エイズ患者 累計
北海道	1	北海道	2	〔2〕	2	〔2〕	312	1.6%	〔196〕	〔2.0%〕	6	〔5〕	3	〔3〕	189	2.1%	〔102〕	〔2.2%〕
東北	2	青森県	1	〔0〕	0	〔0〕	55	0.3%	〔23〕	〔0.2%〕	0	〔0〕	0	〔0〕	34	0.4%	〔15〕	〔0.3%〕
	3	岩手県	0	〔0〕	0	〔0〕	31	0.2%	〔13〕	〔0.1%〕	1	〔1〕	1	〔0〕	34	0.4%	〔16〕	〔0.3%〕
	4	宮城県	1	〔1〕	3	〔3〕	142	0.7%	〔71〕	〔0.7%〕	0	〔0〕	1	〔1〕	94	1.1%	〔56〕	〔1.2%〕
	5	秋田県	0	〔0〕	0	〔0〕	23	0.1%	〔8〕	〔0.1%〕	0	〔0〕	0	〔0〕	24	0.3%	〔11〕	〔0.2%〕
	6	山形県	0	〔0〕	0	〔0〕	28	0.1%	〔13〕	〔0.1%〕	0	〔0〕	1	〔0〕	24	0.3%	〔6〕	〔0.1%〕
	7	福島県	3	〔2〕	1	〔1〕	80	0.4%	〔45〕	〔0.5%〕	2	〔1〕	3	〔2〕	57	0.6%	〔27〕	〔0.6%〕
		ブロック計	5	〔3〕	4	〔4〕	359	1.8%	〔173〕	〔1.8%〕	3	〔2〕	6	〔3〕	267	3.0%	〔131〕	〔2.9%〕
関東・甲信越	8	茨城県	1	〔1〕	2	〔2〕	546	2.8%	〔146〕	〔1.5%〕	2	〔2〕	0	〔0〕	329	3.7%	〔93〕	〔2.0%〕
	9	栃木県	4	〔4〕	3	〔2〕	256	1.3%	〔81〕	〔0.8%〕	1	〔0〕	2	〔2〕	202	2.3%	〔63〕	〔1.4%〕
	10	群馬県	2	〔2〕	2	〔2〕	203	1.0%	〔83〕	〔0.8%〕	2	〔2〕	2	〔2〕	148	1.7%	〔52〕	〔1.1%〕
	11	埼玉県	5	〔6〕	7	〔10〕	553	2.8%	〔459〕	〔4.6%〕	2	〔3〕	2	〔3〕	364	4.1%	〔206〕	〔4.5%〕
	12	千葉県	6	〔12〕	5	〔13〕	831	4.2%	〔444〕	〔4.5%〕	8	〔7〕	3	〔4〕	559	6.3%	〔233〕	〔5.1%〕
	13	東京都	93	〔61〕	99	〔74〕	7,391	37.3%	〔3,033〕	〔30.7%〕	27	〔24〕	30	〔25〕	2,217	24.9%	〔967〕	〔21.1%〕
	14	神奈川県	13	〔15〕	14	〔12〕	1,321	6.7%	〔692〕	〔7.0%〕	7	〔10〕	3	〔4〕	644	7.2%	〔284〕	〔6.2%〕
	15	新潟県	1	〔1〕	3	〔3〕	101	0.5%	〔39〕	〔0.4%〕	0	〔0〕	0	〔0〕	60	0.7%	〔25〕	〔0.5%〕
	16	山梨県	1	〔1〕	0	〔0〕	119	0.6%	〔39〕	〔0.4%〕	1	〔1〕	1	〔0〕	52	0.6%	〔15〕	〔0.3%〕
	17	長野県	5	〔5〕	3	〔2〕	317	1.6%	〔72〕	〔0.7%〕	4	〔1〕	1	〔1〕	207	2.3%	〔59〕	〔1.3%〕
		ブロック計	131	〔108〕	138	〔120〕	11,638	58.7%	〔5,088〕	〔51.5%〕	54	〔50〕	44	〔41〕	4,782	53.7%	〔1,997〕	〔43.5%〕
北陸	18	富山県	2	〔2〕	2	〔2〕	45	0.2%	〔25〕	〔0.3%〕	2	〔2〕	2	〔3〕	36	0.4%	〔19〕	〔0.4%〕
	19	石川県	1	〔1〕	0	〔0〕	83	0.4%	〔48〕	〔0.5%〕	1	〔0〕	0	〔0〕	40	0.4%	〔25〕	〔0.5%〕
	20	福井県	0	〔0〕	0	〔0〕	48	0.2%	〔24〕	〔0.2%〕	0	〔0〕	1	〔3〕	35	0.4%	〔25〕	〔0.5%〕
		ブロック計	3	〔3〕	2	〔2〕	176	0.9%	〔97〕	〔1.0%〕	3	〔2〕	3	〔6〕	111	1.2%	〔69〕	〔1.5%〕
東海	21	岐阜県	2	〔3〕	5	〔5〕	170	0.9%	〔124〕	〔1.3%〕	0	〔0〕	2	〔1〕	127	1.4%	〔92〕	〔2.0%〕
	22	静岡県	0	〔1〕	3	〔2〕	434	2.2%	〔171〕	〔1.7%〕	6	〔4〕	0	〔0〕	216	2.4%	〔90〕	〔2.0%〕
	23	愛知県	11	〔7〕	10	〔11〕	1,159	5.8%	〔656〕	〔6.6%〕	6	〔6〕	6	〔6〕	603	6.8%	〔450〕	〔9.8%〕
	24	三重県	0	〔0〕	3	〔1〕	164	0.8%	〔84〕	〔0.8%〕	2	〔1〕	1	〔1〕	95	1.1%	〔52〕	〔1.1%〕
		ブロック計	13	〔11〕	21	〔19〕	1,927	9.7%	〔1,035〕	〔10.5%〕	14	〔11〕	9	〔8〕	1,041	11.7%	〔684〕	〔14.9%〕
近畿	25	滋賀県	2	〔1〕	1	〔1〕	84	0.4%	〔52〕	〔0.5%〕	0	〔0〕	2	〔2〕	70	0.8%	〔39〕	〔0.9%〕
	26	京都府	2	〔2〕	4	〔6〕	256	1.3%	〔155〕	〔1.6%〕	2	〔1〕	5	〔4〕	131	1.5%	〔70〕	〔1.5%〕
	27	大阪府	28	〔27〕	29	〔28〕	2,542	12.8%	〔1,382〕	〔14.0%〕	9	〔7〕	12	〔13〕	837	9.4%	〔596〕	〔13.0%〕
	28	兵庫県	4	〔0〕	10	〔7〕	431	2.2%	〔328〕	〔3.3%〕	2	〔1〕	5	〔4〕	240	2.7%	〔150〕	〔3.3%〕
	29	奈良県	0	〔0〕	1	〔0〕	112	0.6%	〔65〕	〔0.7%〕	0	〔0〕	2	〔2〕	76	0.9%	〔48〕	〔1.0%〕
	30	和歌山県	0	〔0〕	2	〔1〕	69	0.4%	〔44〕	〔0.4%〕	1	〔0〕	0	〔0〕	52	0.6%	〔19〕	〔0.4%〕
		ブロック計	36	〔30〕	47	〔43〕	3,494	17.6%	〔2,026〕	〔20.5%〕	14	〔9〕	26	〔25〕	1,406	15.8%	〔922〕	〔20.1%〕
中国・四国	31	鳥取県	0	〔0〕	1	〔1〕	17	0.1%	〔9〕	〔0.1%〕	0	〔0〕	1	〔1〕	19	0.2%	〔16〕	〔0.3%〕
	32	島根県	0	〔0〕	0	〔0〕	19	0.1%	〔10〕	〔0.1%〕	0	〔0〕	0	〔0〕	9	0.1%	〔3〕	〔0.1%〕
	33	岡山県	6	〔4〕	2	〔2〕	156	0.8%	〔106〕	〔1.1%〕	2	〔2〕	2	〔2〕	82	0.9%	〔47〕	〔1.0%〕
	34	広島県	5	〔3〕	1	〔1〕	231	1.2%	〔130〕	〔1.3%〕	3	〔1〕	2	〔2〕	120	1.3%	〔93〕	〔2.0%〕
	35	山口県	0	〔0〕	0	〔0〕	68	0.3%	〔46〕	〔0.5%〕	2	〔1〕	0	〔0〕	27	0.3%	〔18〕	〔0.4%〕
	36	徳島県	0	〔0〕	0	〔0〕	43	0.2%	〔34〕	〔0.3%〕	0	〔0〕	1	〔1〕	25	0.3%	〔17〕	〔0.4%〕
	37	香川県	1	〔1〕	2	〔3〕	68	0.3%	〔48〕	〔0.5%〕	1	〔1〕	2	〔1〕	50	0.6%	〔39〕	〔0.9%〕
	38	愛媛県	2	〔1〕	3	〔2〕	83	0.4%	〔36〕	〔0.4%〕	0	〔0〕	1	〔0〕	60	0.7%	〔35〕	〔0.8%〕
	39	高知県	0	〔0〕	1	〔1〕	43	0.2%	〔29〕	〔0.3%〕	0	〔0〕	0	〔0〕	31	0.3%	〔24〕	〔0.5%〕
		ブロック計	14	〔9〕	10	〔10〕	728	3.7%	〔448〕	〔4.5%〕	8	〔5〕	9	〔7〕	423	4.7%	〔292〕	〔6.4%〕
九州・沖縄	40	福岡県	18	〔19〕	12	〔11〕	566	2.9%	〔398〕	〔4.0%〕	9	〔10〕	7	〔6〕	301	3.4%	〔231〕	〔5.0%〕
	41	佐賀県	2	〔1〕	0	〔1〕	35	0.2%	〔35〕	〔0.4%〕	1	〔1〕	0	〔1〕	21	0.2%	〔22〕	〔0.5%〕
	42	長崎県	1	〔1〕	2	〔2〕	53	0.3%	〔29〕	〔0.3%〕	0	〔0〕	1	〔0〕	36	0.4%	〔20〕	〔0.4%〕
	43	熊本県	3	〔1〕	2	〔1〕	100	0.5%	〔55〕	〔0.6%〕	1	〔0〕	0	〔0〕	63	0.7%	〔47〕	〔1.0%〕
	44	大分県	1	〔1〕	0	〔0〕	57	0.3%	〔35〕	〔0.4%〕	1	〔1〕	0	〔0〕	31	0.3%	〔24〕	〔0.5%〕
	45	宮崎県	2	〔2〕	2	〔2〕	59	0.3%	〔46〕	〔0.5%〕	2	〔2〕	0	〔0〕	45	0.5%	〔35〕	〔0.8%〕
	46	鹿児島県	3	〔3〕	0	〔1〕	96	0.5%	〔69〕	〔0.7%〕	2	〔1〕	2	〔2〕	72	0.8%	〔41〕	〔0.9%〕
	47	沖縄県	7	〔5〕	3	〔1〕	243	1.2%	〔153〕	〔1.5%〕	4	〔3〕	0	〔0〕	120	1.3%	〔66〕	〔1.4%〕
		ブロック計	37	〔33〕	21	〔19〕	1,209	6.1%	〔820〕	〔8.3%〕	20	〔18〕	10	〔9〕	689	7.7%	〔486〕	〔10.6%〕
合計			241	〔199〕	245	〔219〕	19,843	100%	〔9,883〕	〔100.0%〕	122	〔102〕	110	〔102〕	8,908	100%	〔4,587〕	〔100.0%〕

※〔報告地〕：昭和60年から集計
※〔居住地〕：最近数年間の主な居住地（平成19年4月から記載）

後天性免疫不全症候群発生届出（抜粋）
①最近数年間の主な居住地
1)日本国内（　　都道府県）
2)その他（　　）
3)不明

熊本市エイズ総合対策推進会議設置要綱

制定　平成　８年　６月１７日　市長決裁
改正　平成１０年　４月　１日　健康福祉局長決裁
平成１１年　４月　１日　健康福祉局長決裁
平成１４年　４月　１日　健康福祉局長決裁
平成１８年　４月　１日　健康福祉局長決裁
平成２１年　６月３０日感染症対策課長決裁
平成２２年１０月　１日感染症対策課長決裁
平成２４年　４月　１日感染症対策課長決裁
平成２８年　４月　１日感染症対策課長決裁

（設置）
第１条　エイズについての正しい知識の普及啓発の在り方を総合的に検討し、エイズに対する偏見や差別のない「健康と生命（いのち）」を大切にするまちづくりに寄与することを目的として熊本市エイズ総合対策推進会議（以下「会議」という。）を設置する。
（協議事項）
第２条　会議は、次の事項について協議する。
⑴　エイズの正しい知識に関する広報・啓発に関すること。
⑵　エイズ相談及び検査に関すること。
⑶　関係機関との連絡、調整及び協力に関すること。
⑷　その他この要綱の目的の達成に必要な事項に関すること。
（構成）
第３条　会議は、２０名以内の委員によって構成する。
２　委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。
⑴　学識経験者
⑵　保健・医療関係者
⑶　教育、青少年団体関係者
⑷　人権擁護関係者
⑸　企業・事業所関係者
⑹　労働団体関係者
⑺　報道関係者
⑻　ボランティア団体関係者
⑼　その他必要と認める者
（会長及び副会長）
第４条　会議に、会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。
２　会長は、会議を総理し、会議の議長となる。
３　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は欠けたときはその職務を代理する。
（任期）
第５条 委員の任期は２年とし、再選を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
（会議）
第６条　会議は、必要に応じて会長が招集する。
２　会長は、運営上必要があると認めるときは、委員以外のものを会議に出席させ、その意見又は説明を求めることができる。
（庶務）
第７条　会議の庶務は、熊本市健康福祉局保健衛生部感染症対策課に置く。
（委任）
第８条　この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、会長が会議に諮り定める。

附　則
この要綱は、平成８年６月１７日から施行する。
附　則

この要綱は、平成１０年４月１日から改正施行する。

附　則

この要綱は、平成１１年４月１日から改正施行する。

附　則

この要綱は、平成１４年４月１日から改正施行する。

附　則

この要綱は、平成１８年４月１日から改正施行する。

附　則

この要綱は、平成２１年６月３０日から改正施行する。

附　則

この要綱は、平成２２年１０月１日から改正施行する。

附　則

この要綱は、平成２４年４月１日から改正施行する。

附　則

この要綱は、平成２８年４月１日から改正施行する。

熊本市におけるエイズ対策のあゆみ

年度	体制の整備等	キャンペーン等の実施状況
１９８６(S61)	保健所・保健センターにエイズ相談窓口を設置	
１９８７(S62)	ＨＩＶ抗体検査実施（検査機関委託　有料）	
１９９１(H 3)	エイズ相談及びＨＩＶ抗体検査実施要領を作成	
１９９２(H 4)	エイズ対策特別予算計上 熊本市エイズ対策連絡会議を設置	世界エイズデー関連 エイズ講演会開催
１９９３(H 5)	熊本市エイズ総合対策実施要領を作成 ＨＩＶ抗体検査を無料で開始 熊本保健所に専門相談員を配置、英語相談開始 抗体検査の検査機器の整備と保健所で検査開始 市民病院にエイズ医療相談及び診療体制を整備	エイズシンポジウム(熊本市､サンアントニオ市)
１９９４(H 6)	西保健所に専門相談員を設置 エイズ拠点病院の指定（熊本大学医学部付属病院、国立熊本病院、熊本市民病院） 市民病院職員サンアントニオ市派遣	エイズ講演会(サンアントニオ市､ハイデルベルク市より講師招聘) 世界エイズデー関連 パネル展
１９９５(H 7)	市民病院職員サンアントニオ市派遣	世界エイズデー関連　パネル展、講演会
１９９６(H 8)	熊本市エイズ総合対策推進会議設置要綱策定 熊本市エイズ総合対策推進会議の設置と開催 市民病院職員サンアントニオ市派遣	世界エイズデー関連　エイズ･フォーラム 街頭キャンペーン、パネル展、ラジオエイズ特集放送
１９９７(H 9)	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催	世界エイズデー関連 エイズ･フォーラム 映画「コスモス」上映、街頭キャンペーン ラジオエイズ特集放送
１９９８(H10)	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催	高校文化祭でのキャンペーン(アンケート調査) 大学学園祭でのキャンペーン(アンケート調査) 世界エイズデー関連　街頭キャンペーン ラジオ
１９９９(H11)	エイズ対策主管課を感染症対策課に移行 熊本市エイズ総合対策推進会議の開催 感染症新法施行、エイズ予防指針策定	高校・大学でのキャンペーン(アンケート調査) 高校・専門学校等への講師派遣 世界エイズデー関連　街頭キャンペーン ラジオ
２０００(H12)	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催 ＳＴＤ予防指針策定	高校・大学でのキャンペーン(アンケート調査) 高校・専門学校等への講師派遣、ＳＴＤ講演会・キャンペーン、 オリジナルポスター（ＳＴＤ､エイズ）、世界エイズデー街頭キャンペーン： ラジオエイズ特集放送、ＡＲＫ(学生啓発ボランティア)結成
２００１(H13)	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催 第１回エイズ関連市民グループ合同会議開催	大学でのキャンペーン（アンケート調査） 高校・専門学校等への講師派遣 オリジナルポスター(ＳＴＤ､エイズ) 世界エイズデー関連　街頭キャンペーン ピアエデュケーター（ARK. PDYYY）の出前講座
２００２[H14]	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催 夜間エイズ相談・検査を実施（6月～）	同上
２００３[H15]	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催	同上、ラジオ生番組、
２００４[H16]	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催 日曜エイズ相談・検査を実施（5月～）	同上
２００５[H17]	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催	大学でのキャンペーン（アンケート調査） 高校・専門学校等への講師派遣、オリジナルポスター(ＳＴＤ､エイズ)、世界エイズデー関連　街頭キャンペーン、ピアエデュケーターの出前講座
２００６[H18]	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催 ＨＩＶ即日検査を実施（水曜午前：4月～、日曜：6月～）	同上
２００７[H19]	同上	同上

年度	体制の整備等	キャンペーン等の実施状況
２００８[H20]	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催 ＨＩＶ即日検査の枠の増大（平日午後、夜間、日曜）	大学生ボランティアスタッフと企画・実施 ・高校でキャンペーンを実施
２００９[H21]	同上	同上
２０１０[H22]	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催 ＨＩＶ即日検査の枠の増大（平日午後受入人数を増加：11月～） 特例検査の実施(予約不要の休日即日検査:12月)	大学生ボランティアスタッフと企画・実施 ・高校・大学でキャンペーン実施
２０１１[H23]	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催 特例検査の実施（予約不要の休日即日検査：6月、12月）	大学生ボランティアスタッフと企画・実施 ・高校・大学でキャンペーン実施 「働く世代」への出前講座（一般企業等）
２０１２[H24]	同上	同上
２０１３[H25]	同上	大学生ボランティアスタッフと企画・実施 ・高校・大学でキャンペーン実施 「働く世代」への出前講座（一般企業等） Safe LOVE Kumamoto(SaLK)結成（学生を中心とした啓発ボランティアグループ）、街頭キャンペーン実施
２０１４[H26]	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催 特例検査の実施（予約不要の休日即日検査：6月、12月） 夜間検査枠拡充及びメール予約受付の試行(6～8月) 平日午後の即日検査を対象にメール予約受付（10月～）	大学生ボランティアスタッフ等と企画・実施 ・高校・大学でキャンペーン実施 ・街頭キャンペーンの実施 「働く世代」への出前講座（一般企業等） ゲイ支援サークル（KK）との連絡会、情報交換
２０１５[H27]	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催(9月) 特例検査の実施（予約不要の休日即日検査：6月、12月） 平日午後の即日検査を対象にメール予約受付	大学生ボランティアスタッフ等と企画・実施 ・高校・大学でキャンペーン実施 ・市人権推進総室主催「人権映画上映会（フィラデルフィア上映）」でのキャンペーン 「働く世代」への出前講座（一般企業等） 巡回パネル展「HIV×(日常)×わたし。」の開始 ・高校、専門学校、イベント会場等 ゲイ支援サークル（KK※）との協働 ※28年2月にSafety Blanketに改称
２０１６[H28]	(4月14,16日　熊本地震発生) 検査体制の縮小、変則実施 特例検査の実施（予約不要の休日即日検査：6月、12月、3月） 平日午後の即日検査を対象にメール予約受付 熊本市エイズ総合対策推進会議の開催(2月)	大学生ボランティアスタッフ等と企画・実施 ・高校、市内イベント会場でキャンペーン実施 巡回パネル展「HIV×(日常)×わたし。」の実施 ・高校、講習会及びイベント会場等 「働く世代」への出前講座（一般事業所等） ゲイ支援サークル（Safety　Blanket）との協働
２０１７[H29]	夜間・休日検査を休止、通常検査を予約制 特例・臨時検査の実施（6月・12月：予約不要の日曜検査、10月：予約制の夜間検査、3月：予約不要の土曜検査） 平日午後の即日検査を対象にメール予約受付熊本市エイズ総合対策推進会議の開催(8月)	大学生ボランティアスタッフ等と企画・実施 ・高校でキャンペーン実施 ・市学校保健会主催イベントでのキャンペーン ・エイズフォーラムの開催（JICA九州） 巡回パネル展「HIV×(日常)×わたし。」の実施 ・高校、講習会及びイベント会場等 「働く世代」への出前講座（一般事業所等） ゲイ支援サークル（Safety　Blanket）との協働